

業務をこなしている、他県栄養士仲間のネットワークで情報交換を行っている、他職員のスキルアップにつながっている」などである。研修修了生も同様の意見が多く、「演習で苦しんだことが実践面に役立っている、一層やる気が出た、楽しく、効率的に仕事ができている、情報交換が出来る仲間作りの喜び等」であり、本研修の目的に沿った回答が得られた。

「役に立っていない」、「どちらともいえない」の多くは研修後に病院勤務になったものであるが、病院勤務や保健年金課に転勤しても研修での学びが大変役立っているとの意見も多い。

今後の本研修への職員派遣について9割が「ぜひ派遣したい（6割）、派遣したい」、研修修了生も9割が「強く勧めたい（6割）、勧めたい」と回答している。派遣元の意見に勤務年数別の研修、テーマを絞った短い研修、インターネット活用の研修希望があった。研修修了生の意見でも予算や業務を考慮した期間短縮の希望、フォローアップ研修やステップアップ研修を希望する意見があった。反面1ヶ月（26日）の時間割は基本から始まり、積み重ねの内容、また演習が多いために理解しやすかった、集中することが出来た等現状を評価する意見も多い。

現在の職務遂行に「たいへん役立っている」は6割、「役立っている」を加えると9割強、「他の人に強く勧めたい」6割、「勧めたい」を加えると9割強である。強化項目として、現在の地域診断、地域栄養計画・評価に同意する意見は多いものの、危機管理、コーチング、カウンセリング、他職種との連携もあがった。国民・県民健康栄養調査に関する研修希望意見もあり、H20年度から開始予定である。

[短期的提案]

- ①派遣元、研修生の意見を受けた研修内容の検討と派遣元に研修報告の場の提供の依頼の続行。
- ③長期課程合臨の如く、多職種との連携講義やコーチングやカウンセリング講義の検討。

[長期的提案]

- ① ステップアップ研修、2週間単位で前期、後期に分けた研修、経験数別の研修、eラーニングを活用した研修など研修期間や研修スタイルについては、派遣元、研修生、科学院間でキャッチボールをしながら検討。

(3) 食肉衛生検査研修

1. 回収割合

平成18年度と19年度の受講生は75名であり、派遣元自治体の数は51である。回答は研修受講生から57名（回収割合76%）派遣元自治体から46

(回収割合90%)であった。

2. 全般的な評価

本研修は派遣元自治体で95%、研修生で85%の回答者が現在の業務に役立っていると回答した。また、98%の自治体から職員を研修に派遣したいとの意向が寄せられた。これまで本研修に職員を派遣している自治体は本研修が必要であると認識されていたが、計画的に本研修を活用していない自治体、特に最近設立された中核市でその傾向が多いことが懸念される。

3. 研修へのプラス面での評価

- ・と畜検査の最新情報、家畜の疾病に関する最新情報等最新の知識が得られたHACCPの考え方に基づく衛生管理に取り組んでいる施設を見学でき、今後の指導に役立てた
 - ・厚生労働省、農林水産省、その研究機関の話聞くことにより視野が広がった
 - ・他の検査機関の検査方法等の対比、検証に役立った
 - ・テーマ研究で取り組んだ「と畜検査データの還元」について、職場に持ち帰り実践できた
 - ・日常業務への科学的・論理的な取り組みが以前よりできるようになった
 - ・他の自治体の衛生対策の実施方法等業務への導入が可能となった
 - ・法令の判断のグレーゾーンについて、他の自治体の対応を知ることが出来た
 - ・全国のと畜検査員との間でネットワークが構築でき、情報の収集・伝達が容易になったこと
- などのコメントを頂いた。

4. 研修へのマイナス面の評価

- ・実習科目を増やして欲しい
- ・実習(試験・検査)に関するものをお願いしたい

(4) 食品衛生監視指導研修

1. 回収割合

平成18年度と19年度の受講生は46名であり、派遣元自治体の数は36である。回答は研修受講生から41名(回収割合89%)派遣元自治体から29(回収割合81%)であった。

2. 全般的な評価